

図書館だより10月号



読書週間の始まりについて、読書週間のサイトにこう書いてあります。

終戦の2年後の1947（昭和22）年、まだ戦争の傷あとが日本中のあちこちに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・取次会社・書店と図書館が力をあわせ、そして新聞や放送のマスコミも一緒になり、第1回「読書週間」が開かれました。

第1回「読書週間」は11月17日から23日でした。これはアメリカの「チルドレンズ・ブック・ウィーク」が11月16日から1週間であるのにならったものです。各地で講演会や本に関する展示会が開かれたり、読書運動を紹介する番組が作られました。いまの10月27日から11月9日（文化の日をはさんで2週間）になったのは、第2回からです。

それから70年以上が過ぎ、「読書週間」は日本中に広がり、日本は世界のなかでも特に「本を読む国民」の国となりました。

今年の「読書週間」が、みなさん一人ひとりに読書のすばらしさを知ってもらおうきっかけとなることを願っています。

読書のすばらしさは読まないことにはわかりません。読書とは**趣味**であり、人に強要されてすることでもないのです、本を読みたくない人は読まなくても良いと思っています。

ただ、読書をする**きっかけ**としての読書週間なので「**毎日ひまー**」と言っている人には読書も**選択肢の一つ**に入れてもらえればなあと思います。

本は好きでなくても**音楽**が好きという人は多いでしょう。たとえば・・・**セカオワが好き！**という人には『ふたご』という小説をおすすめします。これは、セカオワの**サオリ**が書いた小説で、内容は**Fukase**と**Saori**の出会いから始まり、どうやってセカオワが結成されデビューしたのかというセカオワの歴史です。小説なので登場人物の名前はそれぞれ違っていますが、セカオワが好きな人には**ワクワク**して読めると思います。

映画が好きという人には映画の**原作**や**ノベライズ**がおススメです。**アニメ化**されているものもたくさんあります。**観るのに飽きた人は読む**ことをはじめてみてはどうですか？



- 『とんでもない死に方の科学』 コーディー・キャシディー
- 『火のないところに煙は』 芦沢 央
- 『微妙におかしな日本語』 神永 暁
- 『ありえないほどのうさぎオルゴール店』 瀧羽麻子
- 『ドクターヘリの秘密』 和氣晃司
- 『犬房女子』 藤崎童士
- 『噛みあわない話とある過去について』 辻村深月
- 『論理的にプレゼンする技術』 平林 純

